

科目名	初等生活Ⅰ		担当教員	柘植 良雄	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE212
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場や行政（人事及び教科等指導）の経験を生かし、小学校低学年の教育課程の「要」としての生活科学習の在り方や教師の具体的な指導・援助の在り方を講義する。				
到達目標及びテーマ	児童の生活を重視した過去の教育、低学年児童の発達特性、昨今の児童を取り巻く生活環境の変化等から、生活科創設の背景や意義さらには生活科が提起する初等教育の授業改革の理念、教育原理等について理解し生活科教育の実践上の課題を理解する。また、低学年におけるカリキュラム・マネジメントの中核として、現在求められている資質・能力の育成について理解する。				
授業の概要	本講義では、生活科が創設された意義を、児童の生活や体験に重点を置いた過去の教育動向、現在の児童を取り巻く生活環境などから明らかにする。そして、生活科が問題提起する授業改革の理念とその方法的課題、子どもの側に立つ学習活動の組織化と評価の在り方等を学び、今求められている資質・能力の育成を実際の学校現場の授業映像等をもとに追究する。				

授業計画					
第1回	初等生活Ⅰの学び方（オリエンテーション：大学の“学修”） ・学校現場で求められる教師とその役割の重要性 小課題：「学習指導要領とは何か」 テキストP101～P105参照				
第2回	「学習指導要領」の変遷と生活科の創設 小課題：「いわゆる大正の新教育とは何か」				
第3回	生活科前史としての欧米の教育、大正の新教育、戦後のコアカリキュラム 小課題：子どもを取り巻く環境の変化（昔と今）は何か。（特に子どもの遊びについて）				
第4回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの実態、成長への課題 小課題：学習指導要領で求められる「資質・能力」とは何か。テキストP1～P7参照				
第5回	生活科創設の背景と求められる資質・能力 小課題：「生活に必要な（習慣や）技能を意図したおもちゃづくり」（作品）				
第6回	個性重視の教育の始まりと生活科教育 小課題：生活科の学年目標、（基本的な）視点、具体的な視点、学習対象とは何か。テキストP23～P51参照				
第7回	学習指導要領解説(生活編)の読み方① ・教科目標、学年目標、基本的・具体的な視点、学習対象、学習内容 小課題：解説書を読み解く① テキストP8～P22参照				
第8回	学習指導要領解説(生活編)の読み方② ・学年の目標と内容構成の考え方 小課題：解説書を読み解く② テキストP17～P28参照				
第9回	生活科における気付きとその質的な高まり ・気付きとは、また質が高まるとは 小課題：生活科の目標の記述を知る。テキストP29～P51参照				
第10回	スタートカリキュラムと小一プロブレムを討論する 小課題：スタートカリキュラムについて自らの考えをまとめる（レポート）				
第11回	幼稚園・保育園と小学校の接続とスタートカリキュラム、カリキュラム・マネジメント 小課題：テキスト熟読しまとめる。P126～P138、P52～P67				
第12回	生活科の授業映像を視聴し、評価・討論する① ・授業における教師のアイデアと配慮事項（デジタル機器、ICT端末の活用） 小課題：テキストP87～P99を熟読し、自らの生活科学習を振り返る（レポート）				
第13回	生活科の授業映像を視聴し、評価・討論する② ・授業における教師のアイデアと配慮事項（デジタル機器、ICT端末の活用） ・生活科の指導計画と評価 小課題：指導計画作成の配慮事項とは何か。テキストP52～P72参照				
第14回	生活科から「総合的な学習の時間」へ ・カリキュラムマネジメントとしての生活科、総合的な学習の時間を考える 小課題：テキストP87～P99を熟読し、自らの生活科学習を振り返る（レポート）				
第15回	これまでに学んだ生活科の学修を振り返り、あなたが考える望ましい生活科授業の具体を考える 小課題：あなたが考える望ましい生活科授業の具体をレポートにまとめる。				

事前学修	2時間	各授業の終了時に次時の学習に関わる小課題を提示し、テキスト等をもとにして自分なりに課題について調べ、次時にレポートや作品として提出する。
事後学修	2時間	授業での配付資料及びテキストをもとにして、授業を復習するとともに本時の授業プリントを完成させ、次時に提出する。

フィードバックの方法	毎時間の学習ノートと小課題をもとに、一人一人の学び方と取り組み姿勢を評価し、小課題の最適解を講義で紹介する。また、レポートについては個別にコメントし、学びを総合的に評価・指導できるようにする。
------------	--

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	量とわかりやすい記述
上記以外の試験・平常点評価	50%	キーワードを使ったわかりやすいノート記述
上記以外の試験・平常点評価	10%	工夫点が明確な作品制作
定期試験	0%	
補足事項	<p>コロナの感染状況を考え、いつオンライン授業にとなっても対応できるように、事前にノート（資料を含む）をPDFファイルでユニバにアップしておきます。対面授業が可能な場合、ノートはその都度授業で配布します。</p> <p>毎回、授業後に各自でノートを整理し、携帯カメラでノートの表と裏を別々に撮影し（jpegファイル）、期日までにユニバにアップしてください。</p>	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説（生活編）	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-0364-5	c-3037
参考資料				

科目名	初等生活Ⅰ		担当教員	井深 智子	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1SRE212
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、実際の生活科学学習の指導のあり方や留意点、課題等について講義する。				
到達目標及びテーマ	大正時代に提唱された経験や発達を重視した新教育、低学年児童の発達や学びの特性及び児童を取り巻く生活環境の変化等から生活科創設の背景や意義等、生活科創設の経緯を理解する。さらに、生活科が提起する初等教育の授業改革の理念、教育原理及び生活科教育の実践上の課題を講義や体験等から理解する。また、学習指導要領の趣旨や生活科における育成を目指す資質・能力及びカリキュラム・マネジメント、幼児教育との架け橋期の指導プログラムについて理解する。				
授業の概要	本講義では、生活科が創設された趣旨や意義を、児童の生活や体験に重点を置いた過去の教育動向、低学年児童の発達や学びの特性及び現在の児童を取り巻く生活環境などから明らかにする。そして、生活科が問題提起する授業改革の理念とその方法的課題、「深い学び」につながる学習活動の組織化と評価の在り方等を学び、目指す資質・能力の育成について実際の活動や授業視聴から追究する。				

授業計画	
第1回	初等生活Ⅰの学び方（オリエンテーション）、学校現場で求められる教師とその役割、実習 小課題：「自然観察」
第2回	「学習指導要領」の変遷（平成の教育まで）、生活科の理念をもつ教育前史 小課題：「学習指導要領について」
第3回	令和の教育（中央教育審議会答申の基本理念等） 小課題：「これからの社会で求められる資質・能力」
第4回	生活科新設までの経緯と新設理由、現行学習指導要領改訂の要点と生活科の教科目標 小課題：「生活科新設の理由」
第5回	生活科の目標と資質・能力、内容の構成
第6回	内容（6）遊びに使う物の製作と活動体験 小課題：「作品製作①と気付き等」
第7回	学習指導要領解説(生活編)の読み方①「各内容における資質・能力の分析と構成」 小課題：「本時に関わる解説書のまとめ」
第8回	学習指導要領解説(生活編)の読み方②「生活科指導における課題と学習指導の進め方」 小課題「作品製作②と気付きの質の高まり」
第9回	学習指導要領解説(生活編)の読み方③「気付きと気付きの質の高まり」 小課題：「本時に関わる解説書のまとめ」
第10回	生活科の内容の実体験と教師の指導の在り方（作品製作③） 小課題：「願い実現に向けた活動の具体と追究過程」
第11回	生活科の教育原理①「就学前教育との接続：架け橋期の教育プログラム（スタートカリキュラム）」 小課題：「スタートカリキュラムが必要な理由」
第12回	生活科の教育原理②「具体的な活動や体験と思考及び気付き、主体的、対話的で深い学び」
第13回	生活科の教育原理③「生活科の評価と教師の指導」 小課題：「児童の見取りと教師の指導」
第14回	実際の授業（映像）を評価・討論する「授業における教師の指導と配慮事項」 小課題：「自らの生活科学修を振り返る」
第15回	合科的・関連的な指導、生活科におけるカリキュラム・マネジメント

事前学修	2時間	授業の終了時に小課題を提示する。テキスト等をもとにして自分なりに小課題について調べ、レポートとして提出する。
事後学修	2時間	授業ノートや配付資料及びテキストをもとにして、授業を復習するとともに本時の授業ノートを完成させる。
フィードバックの方法		授業に臨む姿勢及び毎時間の授業ノートの記録をチェックし評価する。小課題については、レポートや作品の取り組み状況の評価する。また、授業の中で最適解が得られるようにしたり、模範解答を示したりする。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	30%	提示された課題のレポートを評価する。(学習指導要領の趣旨や背景、生活科における課題等)
上記以外の試験・平常点評価	70%	50%:毎回の授業ノート(復習とまとめ、課題)を評価する。20%:作成した作品を評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編(平成29年7月)	文部科学省	東洋館出版社	978-4-491-03464-5	なし
参考資料	「生活科で子どもは何を学ぶかーキーワードはカリキュラム・マネジメントー」東洋館出版社			毎時間の授業ノート及び提示資料

科目名	初等生活Ⅱ		担当教員	柘植 良雄	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2SRE213
期待される学修成果	基礎教養 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師を含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、自然体験の具体的な指導のあり方、児童の引率の仕方等について実地で指導する。				
到達目標及びテーマ	学校現場での自然体験学習の必要性を実地体験を通して体得し、自然の変化を科学的に理解するとともに、教師としての具体的な指導・援助のあり方を身につける。				
授業の概要	羽島キャンパス内・周辺および岐阜県百年公園（岐阜県博物館）での自然体験学習を通して、望ましい自然に対する見方・考え方を学び、自然の素材を活用した遊びやゲームを体験する。そして、受講生全員で樹木・草花の観察図鑑を作成する。（集中講義の形式）				

授業計画	
第1回	<羽島キャンパス講義室> 授業計画（オリエンテーション）シラバス説明、グループ作り、学習指導要領における自然体験の重要性について理解する。 事後学習：羽島キャンパス内の樹木・草花の名前と場所を確認する。参照：配付資料
第2回	<羽島キャンパス講義室> 自然観察の仕方や留意点を映像より理解し、自然観察学習における児童引率のあり方を理解する。 事後学習：パソコンや携帯ソフトを使ったデジタル写真の編集の仕方を予習する。
第3回	<羽島キャンパス 野外演習①> 羽島キャンパス周辺の自然観察を行い、写真等による記録の仕方を学ぶ。 事後学習：パソコンや携帯ソフトを使って観察データを適切に処理する。
第4回	<羽島キャンパス 野外演習②> 羽島キャンパス周辺の自然観察を行い、写真等による記録および安全な児童引率の仕方を学ぶ。 事後学習：エクセルを活用した自然の樹木、草花の整理の仕方を学ぶ。
第5回	<羽島キャンパス講義室> 樹木・草花の整理の仕方を交流し、教師が活用しやすい（植物）図鑑のあり方を考える。 事後学習：自分たちで決めた項目に沿って、観察データを処理する。
第6回	<岐阜県百年公園>（第6～8回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の土曜日：9:30～16:30）自然観察のあり方（講義）講師：博物館学芸員
第7回	<岐阜県百年公園>（第6～8回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の土曜日：9:30～16:30）野外での自然体験実習①「博物館周辺の諸感覚を使った自然体験、草花遊び」講師：博物館学芸員
第8回	<岐阜県百年公園>（第6～8回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の土曜日：9:30～16:30）野外での自然体験実習②「百年公園遊歩道での諸感覚を使った自然体験、草花遊び」講師：博物館学芸員 事後学習：樹木、草木の名前と写真等のデータ整理
第9回	<岐阜県百年公園>（第9～11回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の日曜日：9:30～16:30）「いきものビンゴと生活科学学習」（講義）講師：博物館学芸員
第10回	<岐阜県百年公園>（第9～11回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の日曜日：9:30～16:30）野外での自然体験実習③「いきものビンゴ実習作成Ⅰ（野外）」講師：博物館学芸員
第11回	<岐阜県百年公園>（第9～11回）★自然体験学習（県博物館：10月末か11月初旬の日曜日：9:30～16:30）野外での自然体験実習④「いきものビンゴ実習作成Ⅱ（野外）と私の宝物づくり、発表会」講師：博物館学芸員 事後学習：新たないきものビンゴの作成
第12回	羽島キャンパスパソコン室（第12～13回）自らが第3～11回の自然観察で得たデータを基に、文献等を参考にして図鑑を作成する。
第13回	羽島キャンパスパソコン室（第12～13回）自らが第3～11回の自然観察で得たデータを基に、文献等を参考にして図鑑を作成する。 事後学習 各自10種類の樹木・草花を抽出し、自分たちで決めた項目で図鑑を仕上げる。
第14回	<羽島キャンパス講義室>（14～15回） 樹木・草花図鑑の発表と交流①「自らが作成、製本した樹木・草花図鑑の紹介」
第15回	<羽島キャンパス講義室>（14～15回） 樹木・草花図鑑の発表と交流②「自らが作成、製本した樹木・草花図鑑の紹介」 事後学習 受講生全員で作成した図鑑を活用する

事前学修	0.5時間	第1回目に配布した資料を熟読し、後期を通じて羽島キャンパス内の樹木を観察する。
事後学修	0.5時間	第2回・3回：観察データの画像処理の仕方やエクセルによる集計ができるようにする。 第11回・12回：文献等を参考にして、観察記録から各自10種類の樹木・草花を図鑑に載せる。
フィードバックの方法	各自が作成した観察記録（図鑑）をカラー印刷し配布し、学校現場で活用できるようにする。また、データをグーグルドライブに載せ、受講生誰もがデジタルデータを活用できるようにする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	40%	研修に臨む態度
レポート	60%	各自作成した図鑑の内容
定期試験	0%	
補足事項	グーグルドライブ（共有フォルダ）を作成し、個人の観察データはここに保存して受講生が互いに見られるようにする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料配布	なし	なし	なし	なし
参考資料				